

令和2年度 第2回練馬区立美術館運営協議会次第

日時：令和3年3月24日（水）午後2時
場所：サンライフ練馬 研修室

（審議事項）

- 1 令和3年度事業計画（案）
 - （1）収支予算
 - （2）展覧会事業
 - （3）教育普及事業

（報告事項）

- 2 令和2年度事業報告（中間報告）
 - （1）展覧会事業
 - （2）美術作品の収集事業（再掲）
 - （3）広報活動と反響
 - （4）新型コロナウイルス感染症対策

- 3 その他

令和2年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(令和3年3月24日)

令和2年度第2回練馬区立美術館運営協議会資料 目次

練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
練馬区立美術館運営協議会条例	3
1 令和3年度 事業計画（案）	
(1) 収支予算	5
(2) 展覧会事業	6
① 「8つの意表 ～絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ～」展	7
② 「没後20年 まるごと馬場のぼる」展	8
③ 「ピーター・シスの闇と夢」展（仮称）	9
④ 「所蔵作品による 小林清親 － サプリメント －」展（仮称）	10
⑤ 「生誕110年 香月泰男」展	11
(3) 教育普及事業	12
2 令和2年度事業報告（中間報告）	
(1) 展覧会事業	14
(2) 美術作品の収集事業（再掲）	16
(3) 広報活動と反響	17
(4) 新型コロナウイルス感染症対策	21

第 18 期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

	氏 名	役 職
学識経験者	タカハシ コウジ 高橋 幸次	国際ファッション専門職大学教授 元日本大学芸術学部 教授
	アオキ シゲル 青木 茂	明治美術学会顧問
	イズイ ヒデカズ 伊豆井 秀一	元埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹
	サトウ ヤスヒロ 佐藤 康宏	美術史家
	シマダ ノリオ 島田 紀夫	実践女子大学名誉教授
	ナイトウ マサト 内藤 正人	慶応義塾大学教授
	マブチ アキコ 馬淵 明子	国立西洋美術館長
練馬区議会 議員	オガワ ケイコ 小川 けいこ	区議会議員
	コウグチ ヨウコ 高口 ようこ	区議会議員
	トミタ ケンジ 富田 けんじ	区議会議員
	キミガキ ケイコ きみがき 圭子	区議会議員
公募区民	スドウ アサヨ 須藤 麻世	公募区民
	サイトウ ノリコ 齋藤 宜子	公募区民
	ハタ チエコ 畑 智江子	公募区民
美術団体 関係者	ヨシダ ミゾウ 吉田 巳蔵	練馬・文化の会代表
	シマダ コウイチロウ 島田 紘一呂	練馬区美術家協会会長
学校教育 関係者	エガワ サトシ 江川 誠志	区立中学校校長
	トヨダ カツシ 豊田 克史	区立小学校校長

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和60年10月8日

条例第45号

(設置)

第1条 練馬区立美術館（以下「美術館」という。）の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、区長の諮問に応じてつぎに掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 美術館の運営方針に関すること。
- (2) 美術館の事業計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、区長に意見を述べることができる。

(定数)

第3条 協議会は、委員19人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、区長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 8人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 区民 3人以内
- (4) 美術団体関係者 2人以内
- (5) 学校教育関係者 2人以内

2 前項第3号に規定する区民は、公募により選任するものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第6条 協議会に会長および副会長を各1人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くこ

とができる。

(部会)

第8条 協議会は、第2条第1項に規定する事項について調査検討を行うため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織する。

3 部会は、協議会の求めがあったときは、必要な事項を報告しなければならない。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域文化部において処理する。

(委任)

第10条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

付 則 (平成23年12月条例第53号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則 (平成26年12月条例第49号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

1 令和3年度事業計画(案)

(1) 指定管理者収支予算

(単位：千円)

経費種別	支出			収入			
	施設管理費	事業費	人件費	指定管理業務費	利用料金・物販等	その他	
人件費	0	0	70,348	70,348	0	0	
美術館維持経費	74,008	0	0	72,800	1,208	0	
展覧会事業費	0	84,868	0	41,544	42,174	1,150	
教育普及事業費	0	1,975	0	1,625	350	0	
練馬区立美術館維持運営費 計	74,008	86,843	70,348	186,317	43,732	1,150	

(2) 区直接執行予算(美術館維持運営費)

項目	支出額
美術館運営協議会委員報酬	447
資料収集委員会委員等謝礼	314
再整備基本構想策定支援業務委託料	4,873
消耗品費	244
区執行額計	5,878

【参考】区直接執行予算(美術の森緑地維持管理費)

項目	支出額
光熱水費	150
修繕料	200
消耗品費	30
樹木せん定料	719
維持管理等委託料	2,902
維持補修費	267
区執行額計	4,268

(2) 展覧会事業

令和3年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月30日 6月30日 <45日間>	【有料】 「8つの意表 ～絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ～」展				毛利
7月2日 7月11日 <9日間>	【無料】□ 第67回練馬区美術家協会展				
7月25日 9月12日 <43日間>	【有料】 「没後20年 まるごと馬場のぼる」展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!				眞子
9月23日 11月14日 <46日間>	【有料】 「ピーター・シスの闇と夢」展(仮称)				小野
11月23日 12月12日 <18日間>	(一般貸出)		11月23日 1月30日 <55日間>	【無料】 「所蔵作品による 小林清親 - サプリメント -」展 (仮称)	加藤
12月18日 12月26日 <8日間>	【無料】 第53回練馬区民美術展				
1月4日 1月13日 <9日間>	(一般貸出)				
1月15日 1月19日 <4日間>	練馬区中学校生徒作品展				
1月22日 1月27日 <5日間>	練馬区小学校連合同工展				
1月29日 1月30日 <2日間>	練馬区小中学校連合同書きぞめ展				
2月6日 3月27日 <43日間>	【有料】 「生誕110年 香月泰男」展				

「8つの意表 ～絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ～」展 開催要項

- 1 開催趣旨 「意表をつく」という言葉は、「相手の予期しないことをする」という意味で用いられますが、「意表」はまた「ところをあらわす」という意味で使われることもあります。本展ではこれをキーワードに、当館のコレクションから、練馬にゆかりの深いアーティストを含む下記8名を選びました。近現代美術にユニークな「軌跡」を残した彼らそれぞれの二重の意味での「意表」を、複数の個展形式で展示。明治末年から令和にいたる、激動する日本を生きてきたアーティストたちが、どのようにして自己と社会を見つめ「意表」を行い、時代の中で「奇跡」を成してきたかを約100点の絵画・版画作品で紹介します。（作家略歴は生年順）
- ・大沢昌助（1903～97）は東京の生まれ。1943年に二科会会員となる。戦後は、日本国際美術展、現代日本美術展、国際形象展などで活躍。
 - ・古沢岩美（1912～2000）は佐賀県の生まれ。上京後、豊島区にあった「池袋モンパルナス」で画家たちと交流。シュルレアリズムに学んだ作品で注目を集める。
 - ・野見山暁治（1920～）は福岡県の生まれ。1952年渡仏。1958年に安井賞、2014年に文化勲章を受賞。練馬区にアトリエを構え、現在も旺盛に制作を続ける。
 - ・小野木学（1924～76）は東京の生まれ。1959年シュル美術賞展で第二席。「風景」をテーマに、モノクロームを基調とした絵画を探求。長く練馬区に在住。
 - ・草間彌生（1929～）は長野県の生まれ。1957年に渡米、《無限の網》やソフト・スカルプチュア等で注目を浴びる。小説・詩作でも才能を発揮。
 - ・中村宏（1932～）は静岡県県の生まれ。日本アンデパンダン展、現代日本美術展等に出品。社会問題や心象風景をモチーフに国内外で活躍。練馬区在住。
 - ・近藤竜男（1933～2019）は東京の生まれ。1961年から2001年までニューヨークに在住、独自のモノクローム的抽象絵画を探求。以後練馬区に在住。
 - ・鏑木昌弥（1938～）は東京の生まれ。30歳の頃に練馬区に在住。1975年の初個展で鉛筆画による作品を発表し、その後幻想的な作風を展開。
- 2 会 期 令和3年4月30日(金)～6月20日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 内 容 油彩画、版画など 約100点
- 5 図 録 なし
- 6 観 覧 料 500円
- 7 イベント 鑑賞プログラムを開催予定
- 8 観覧者見込 4,500人(100人／日)
- 9 担 当 副館長 毛利義嗣

「没後 20 年 まるごと馬場のぼる」展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！ 開催要項

- 1 開催趣旨

馬場のぼる（1927～2001）は、絵本『11 ぴきのねこ』シリーズで知られる漫画家です。青森県三戸町に生まれた馬場は、1949 年に漫画家を目指して上京します。1950 年から「ポストくん」の連載が始まり、手塚治虫、福井英一らとともに児童漫画の三羽鳥と呼ばれる人気者となりました。時代の主流が児童漫画から活劇モノに代わっていくと、新聞の 4 コマ漫画など大人向けの漫画も描きながら、徐々に絵本に活動の場を移します。『11 ぴきのねこ』はロングセラーとなり、シリーズは 6 冊出版され、絵本のみならずキャラクターグッズや人形劇など様々な媒体で人気を誇っています。

馬場は 1952 年から亡くなるまで約 50 年間練馬区に居住した、地域ゆかりの作家でもあります。本展は絵本や漫画の仕事を紹介するとともに、自宅に保管されていた 50 年分のスケッチブックや、自身が楽しんで制作した絵画・立体作品、他作家との交流などから、人としての馬場のぼるに焦点を当て、馬場の視点や思考がどのように作品に昇華されたのか、その道筋を辿ります。
- 2 会 期 令和 3 年 7 月 25 日(日)～9 月 12 日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 協 力 株式会社アドシステム、株式会社こぐま社、三戸町
- 5 内 容 漫画原稿、挿絵原画、絵画、資料など 約 200 点
- 6 図 録 制作（こぐま社）
- 7 観 覧 料 1,000 円
- 8 イベント 担当編集者の講演会、ワークショップなどを開催
- 9 観覧者見込 19,350 人(450 人／日)
- 10 担 当 学芸員 眞子みほ

※令和 4 年夏に八戸市美術館、秋に刈谷市美術館へ巡回予定（日程は未定）

「ピーター・シスの闇と夢」展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

2012年に国際アンデルセン賞の画家賞を受賞した絵本作家、ピーター・シスを紹介します。1949年、旧チェコスロバキアのブルノに生まれたシスは、プラハの美術工芸学校とロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで学び、短編アニメーションの制作でその才能を広く認められます。1982年には政府よりロサンゼルス・オリンピック（1984年）の映像制作のため派遣されますが、祖国を含めた東側諸国がオリンピックのボイコットを表明したことにより、アメリカへの亡命を決意します。アメリカへ移住した後はニューヨークに拠点を定め、新聞、雑誌、絵本などのジャンルを中心に活躍しています。

ニューヨーク・タイムズ紙が選ぶ年間ベストテンや、パブリッシャーズ・ウィークリーのベストセラーリストの常連となったシスは、絵本『星の使者ガリレオ・ガリレイ』（1996年）においてアメリカの優れた絵本に与えられるコルデコット賞推薦を受け、次点となります。2007年には自伝に基づく絵本『かべ 鉄のカーテンのむこうに育って』を発表し、チェコ出身の絵本作家として世界的な評価を確立します。2014年には『星の王子さま』にも挿絵を手がけ、サン＝テグジュペリの名作に新たな解釈を提示しました。

本展では、アニメーション作品からオブジェ、絵本原画、スケッチなど様々な作品や資料など約150点により、シスの幅広い創作活動と、シスの作品の土壌となったチェコの文化の魅力をご紹介します。
- 2 会 期 令和3年9月23日(木・祝)～11月14日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 後 援 駐日チェコ大使館、チェコ・センター東京（仮）
- 5 企画協力 株式会社イデッフ
- 6 内 容 絵本原画、資料、アニメーション、スケッチなど 約150点
- 7 図 録 制作
- 8 観 覧 料 1,000円
- 9 イベント 講演会などを開催
- 10 観覧者見込 16,100人(350人／日)
- 11 担 当 学芸員 小野寛子

「所蔵作品による 小林清親—サプリメント—」展（仮称） 開催要項

- 1 開催趣旨

小林清親（弘化 4～大正 4・1847～1915）は“最後の浮世絵師”とも呼ばれる、明治期を代表する浮世絵師です。明治 8 年（1875 年）にデビューをしますが、その登場は鮮烈でした。淡く明るい色調と光と影、天候や時間をも表現した、まるで水彩画のような東京名所シリーズは”光線画“と呼ばれ、人々の絶賛を浴びました。それ以降も、戦争画や歴史画、カリカチュア、戯画などを描き続け、浮世絵の終焉の美を飾ると共に、明治生まれの若い芸術家たちに大きな影響を与えました。

当館では 2015 年 4 月に「小林清親展 文明開化の光と影をみつめて」を開催しました。これは清親の没後 100 年を記念して開催した展覧会で、そのデビューから最晩年まで、版画、肉筆画、スケッチ、遺品等 300 点で清親の生涯を辿るものでした。この展覧会が機縁となって、清親の作品や遺品を 300 件以上、寄託作品として受けることになりました。その中には、世に“小林清親写生帖”として知られ、清親の光線画の源泉となったスケッチブックや未公開の下図や肉筆画、印章などの遺品が含まれています。この展覧会ではそうした未紹介・未公開の貴重な作品、資料を数多く含め、2015 年のサプリメント（補遺）として開催する小林清親展です。
- 2 会 期 令和 3 年 11 月 23 日（火・祝）～令和 4 年 1 月 30 日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 内 容 版画、肉筆画、遺品など
- 5 図 録 なし
- 6 観 覧 料 無料
- 7 イベント ギャラリートーク、ワークショップ、鑑賞プログラムなどを開催予定
- 8 観覧者見込 6,600 人(120 人／日)
- 9 担 当 学芸員 加藤陽介

「生誕 110 年 香月泰男」展 開催要項

- 1 開催趣旨

太平洋戦争とシベリア抑留の体験を描いた「シベリア・シリーズ」で、戦後洋画史に確固たる地位を築いた香月泰男（1911～74）。57 点の油彩画からなるシベリア・シリーズは、応召から戦地での日々、シベリア抑留、そして復員まで、画家が体験した出来事の順番に沿って紹介されるのが一般的です。しかし実際には「物語」のはじまりともいえる、下関港から大陸へ出航する場面が、他の作品よりも後に描かれるなど、当初から一貫した連作として構想され、描かれたものではありませんでした。

本展覧会は、東京美術学校時代から最晩年まで、シベリア・シリーズを含む各年代の代表作を制作年順に展覧し、香月泰男の画業の全容を紹介します。「一大叙事詩」として読み取られることの多いシベリア・シリーズを「解体」し、同時期に制作された他の作品と併せてご覧いただくことで、画家の創作活動における同シリーズの位置づけを再検証し、これまで「シベリアの画家」としてのイメージに隠れがちだった香月芸術の多彩な魅力に迫ります。
- 2 会 期 令和 4 年 2 月 6 日(日)～3 月 27 日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
- 4 監 修 山口県立美術館、香月泰男美術館
- 5 企画協力 一般社団法人インディペンデント
- 6 内 容 油彩画、素描など 約 150 点
- 7 図 録 制作
- 8 観 覧 料 1,000 円
- 9 イベント 学芸員によるギャラリートーク、ワークショップなどを開催
- 10 観覧者見込 8,600 人(200 人／日)
- 11 担 当 学芸員 喜寿孝臣

※宮城県立美術館（令和 3 年 7 月 3 日～9 月 5 日） 神奈川県立近代美術館 葉山（令和 3 年 9 月 18 日～11 月 14 日）、新潟市美術館（令和 3 年 11 月 27 日～令和 4 年 1 月 23 日）、足利市立美術館（令和 4 年 4 月 5 日～5 月 29 日）を巡回

令和3年度 教育普及事業計画(案)

令和3年2月16日現在

館内事業

I) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

① 関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「没後20年 まるごと馬場のぼる」展	7～8月	2	未定	未定
2	「ピーター・シスの闇と夢」展(仮称)	未定	未定	未定	未定
3	「所蔵作品による 小林清親」展(仮称)	未定	未定	未定	未定

② ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「所蔵作品による 小林清親」展(仮称)	11～1月	未定	自由参加 または抽選	—
2	「生誕110年 香月泰男」展	2～3月	未定	自由参加 または抽選	—

③ 鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「8つの意表」展 トコトコ美術館 テーマ:未定	未定	4	3歳～6歳 +保護者	各回 5組
2	「没後20年 馬場のぼる」展関連 トコトコ美術館 テーマ:ねこ	未定	4	3歳～6歳 +保護者	各回 5組
3	「没後20年 馬場のぼる」展関連 拡大!美術館 テーマ:ねこ	未定	2	小学生	各回 10名
4	「没後20年 馬場のぼる」展関連 あかちゃん鑑賞会	未定	2	0～2歳の赤 ちゃんとその 家族	各回 10名
5	「ピーター・シスの闇と夢」展(仮称) 関連 トコトコ美術館 テーマ:未定	未定	4	3歳～6歳 +保護者	各回 5組
6	「所蔵作品による 小林清親」展(仮称) 関連 あかちゃん鑑賞会	未定	2	0～2歳の赤 ちゃんとその 家族	各回 10人
7	「生誕110年 香月泰男」展関連 拡大!美術館 テーマ:未定	未定	2	3歳～6歳 +保護者	各回 5組

④ 講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	「没後20年 まるごと馬場のぼる」展関連 講演会 講師:関谷裕子(こぐま社編集長)	8月	1	中学生以上	30～ 40名
2	「ピーター・シスの闇と夢」展(仮称) 関連 講演会	未定	1	中学生以上	30～ 40名
3	「所蔵作品による 小林清親」展(仮称) 関連 講演会	未定	1	中学生以上	30～ 40名
4	「生誕110年 香月泰男」展関連 講演会	未定	1	中学生以上	30～ 40名

II) ネリビラボ(自分の好きな材料で好きなものを作る実験室)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	ネリビラボ	未定	2	小中学生	各15名

Ⅲ) 施設等紹介事業(施設や所蔵品から美術館を知るプログラム)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ	未定	4	5歳～ 小学2年生	各回 10名
2	所蔵品カードであそぼう!	未定	2	小学生～ 大人	各回 16名
3	おでかけ美術館	未定	1	小学4～6 年生	10名

学校関連事業

I) スクールプログラム

パンフレットを作成し各学校に配布する。

① 団体鑑賞	美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする。
② 施設見学	各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介する。
③ 職場体験・訪問	受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える。
④ 出張プログラム	担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする。

Ⅱ) ティーチャーズディ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。

各回ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。

令和3年度は5回開催する。

	展覧会名
1	「8つの意表」展
2	「没後20年 まるごと馬場のぼる」展
3	「ピーター・シスの闇と夢」展(仮称)
4	「所蔵作品による 小林清親」展(仮称)
5	「生誕110年 香月泰男」展

2 令和2年度 事業報告(中間)

(1) 展覧会事業

令和2年度 展覧会事業日程および観覧者数

(ア) 企画展

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
6月2日(火) ～6月28日(日)※	日本・ポーランド国交樹立100周年記念 シヨパンー200年の肖像	24	13,200 (550)	10,383 (433)	78.7%
10月11日(日) ～12月6日(日)	式場隆三郎 「脳室反射鏡」	49	12,250 (250)	4,663 (95)	38.1%
2月28日(日) ～4月18日(日)	電線絵画展 —小林清親から山口晃まで—	43	15,050 (350)	15,050 (350) (見込)	100.0%
	合 計	116	40,500 (349)	30,096 (259) (見込)	74.3%
	前年度	237	62,580 (264)	62,976 (266)	前年度比 47.8%

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により会期を変更
当初予定 会期:4月26日(日)～6月28日(日) 開催日数:55日

(イ) コレクション展

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
7月8日(水) ～8月2日(日)	練馬区立美術館開館35周年記念 Re construction 再構築【プレ展示】	23	2,990 (130)	1,248 (54)	41.7%
8月9日(日) ～9月27日(日)	練馬区立美術館開館35周年記念 Re construction 再構築【本展示】	43	8,600 (200)	4,134 (96)	48.1%
12月12日(土) ～2月14日(日)	練馬区立美術館開館35周年記念展 35年の35点	50	8,000 (160)	4,990 (100)	62.4%
	合 計	116	19,590 (151)	10,372 (89) (見込)	52.9%
	前年度	18	1,800 (100)	2,370 (132)	前年度比 437.6%

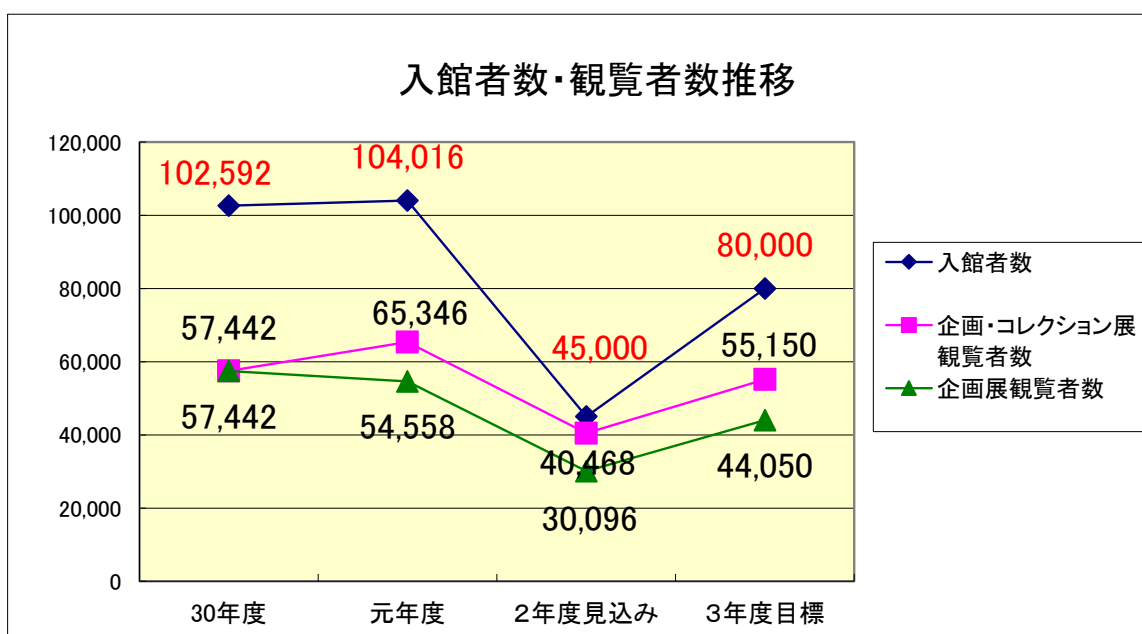
企画展・コレクション展観覧者数比較	元年度	2年度	前年度比
	65,346	40,468 (見込)	61.9%

(ウ) 各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
7月10日(金) ～7月19日(日)	第66回練馬区美術家協会展	0	中止	
1月16日(土) ～1月21日(木)	練馬区小学校連合図工展	0	中止	
1月23日(土) ～1月27日(水)	練馬区中学校生徒作品展	0	中止	
1月30日(土) ～1月31日(日)	練馬区小中学校連合書きぞめ展	0	中止	
2月6日(土) ～2月14日(日)	第52回練馬区民美術展	8	1,603 (200)	
合 計		8	1,603 (200)	前年度比 5.4%
前年度		28	29,442 (1,052)	

(エ) 入館者数

入館者数比較	元年度	2年度	前年度比
	104,016	45,000 (見込)	43.3%



(2) 美術作品の収集事業

美術作品の収蔵状況

(令和2年3月31日現在)

年度	日本画		洋画		版画		工芸		書		彫刻・立体		その他		計		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	
S59	6		9	1			1	2							16	3	19
60	1	1	5	1		1				1					6	4	10
61		7	14	221	14	28								317	28	573	601
62	3	1	32	16	9	1							1	1	45	19	64
63	2	1	15	1	12										29	2	31
H1	2		5	48											7	48	55
2	4	1	19	29	4	1									27	31	58
3	2	1	14	13											16	14	30
4	2	1	12	10	18	9									32	20	52
5	2		1	2											3	2	5
6	1	1	15	7		1					1				17	9	26
7	2	4	4	3		1						1			6	9	15
8	1	2	2	9	5	1									8	12	20
9			12	2	1	46									13	48	61
10	3	4	12	21											15	25	40
11		4	12	5		134									12	143	155
12		8		11											0	19	19
13				13											0	13	13
14		29		13											0	42	42
15		1	6	8	12	77									18	86	104
16		65		6											0	71	71
17		6		20											0	26	26
18		30		121		97								8	0	256	256
19		17		40				5				7		7	0	76	76
20		8		31		21									0	60	60
21		8		44		98						13			0	163	163
22		11		168		9								3		191	191
23		8		13								1		123		145	145
24		32		10		33										75	75
25															0	0	0
26		13	1	422		215						22		2084	1	2756	2757
27		5		97		112		25						18	0	257	257
28		25		22												47	47
29															0	0	0
30		5		11		25								15		56	56
R1		1		2				16				3		28		50	50
合計	31	300	190	1441	75	910	1	48	0	1	1	47	1	2604	299	5351	5650

令和2年3月31日現在
寄託作品 1,900 点

購入・寄贈・寄託計 7,550点

2(3)令和2年度 広報活動と反響

シヨパン-200年の肖像

令和2年6月2日～6月28日

<p><新聞></p> <p>📄記事</p> <p>ちいき新聞 2月28日 陸奥新報 4月 東洋経済日報 6月5日 読売新聞夕刊 6月20日</p>	<p>📧一覧</p> <p>東京新聞 6月18日</p>
<p><雑誌></p> <p>BM vol. 52 4月20日発行 男の隠れ家 3月27日発行 ムジカノーヴァ 4月号(3月19日発行) アートコレクターズ 4月号(3月25日発行)、5月号(4月25日) 男の隠れ家 3月27日発行 アンアン 4月8日発行 びいーゆ 5月1日発行 季刊誌エール 4月1日発行 懸賞ナビ 4月22日発行 InRed 5月14日発売 弦楽器専門誌「サラサーテ」7月2日発行</p>	<p><会員誌、フリーペーパー等></p> <p>ぱる新宿ニュース 4月1日発行 Quintessentially News Letter 3月10日発行 地域情報誌かるがも便り 4月1日発行 月刊 kacce 4月1日発行 情報誌ぱど 5月8日発行 月刊 EzPress5月号 4月24日発行 リビング新聞 4月24日発行 Confetti(カンフェティ) 5月4日発行 定年時代 6月16日発行</p>
<p><WEB></p> <p>レッツエンジョイ東京 ファッションプレス 美術館情報 OBIKAKE G-CALL アートアジェンダ クラブオフ</p>	<p>個展ナビ ShareArt JR 東海ツアーズ 東京ガイドマップ 東京都観光公式サイト「GO TOYKO」 ヤマハ web 音遊人 読売新聞「美術展ナビ」 ONTOMO</p>
<p><その他></p> <p>ねりま区報 6月4日 貫井図書館だより</p>	

Re construction 再構築



プレ展示 令和2年7月8日～8月2日

本展示 令和2年8月9日～9月27日

<p><新聞></p> <p>📰記事</p> <p>日経新聞朝刊 9月15日 朝日新聞夕刊 9月15日 毎日新聞夕刊 9月16日</p>	<p>📧一覧</p> <p>東京新聞 7月16日 8月6日 東武よみうり 8月3日 日経新聞 8月6日 9月3日 朝日新聞 8月11日 9月15日</p>
<p><雑誌></p> <p>アートコレクターズ 8月号 月刊「美術の窓」8月号 新美術新聞 7月28日発行号 芸術新潮 10月号 月刊ギャラリー10月号</p>	<p><会員誌、フリーペーパー等></p> <p>月刊 Kacce 8月1日発行号 Confetti(カンフェティ) 8月3日発行号 アート情報誌『arch』151号 地域創造レター9月号</p>
<p><WEB></p> <p>アートアジェンダ OBIKAKE ウェブ版美術手帖 Share Art クラブオフ Tokyo art beat</p>	<p>G-Call インターネットミュージアム 個展なび ナンスカ ウェブ版美術手帖 (レビュー記事)</p>
<p><その他></p> <p>ねりま区報 7月1日・8月1日 練馬区ホームページ 区公式フェイスブック・区公式ツイッター 練馬区モニター広告 貫井図書館だより ねりまほっとライン 9月前半号 (番組) NERICUL 2020 SUMMER Vol.18</p>	

式場隆三郎 脳室反射鏡展

令和2年10月11日～令和2年12月6日

<p><新聞></p> <p>記事</p> <p>読売新聞朝刊 10月11日 産経新聞 web版 11月9日 朝日新聞夕刊 11月10日 読売新聞朝刊連載 11月17日、18日、19日 毎日新聞夕刊 11月18日(夕刊) 読売新聞夕刊 11月28日(夕刊)</p>	<p>一覧</p> <p>毎日新聞 10月2日、9日、16日、23日、30日 11月6日、13日、20日、27日 12月4日 朝日新聞 10月6日 東京新聞 10月8日 読売新聞 10月7日 産経新聞 10月10日 東洋経済日報 10月16日</p>
<p><雑誌></p> <p>月刊「美術の窓」 11月号 東京かわら版 ほぼづゑ 107号</p>	<p><会員誌、フリーペーパー等></p> <p>民藝 11月号 月刊 Kacce Confetti(カンフェティ)</p>
<p><WEB></p> <p>アートアジェンダ OBIKAKE M&C Share Art</p>	<p>青い日記帳 G-Call ぴあポイントサイト ウェブ版美術手帖</p>
<p><その他></p> <p>ねりま区報 11月1日 練馬区ホームページ 区公式フェイスブック・区公式ツイッター 貫井図書館だより 貫井図書館 美術パスファインダー26 NERICUL 2020 Autumn Vol.19 ねりまほっとライン (テロップ放送) J:COM つながる NEWS (番組)</p>	

35年の35点

令和2年12月12日～令和3年2月14日

<p><新聞></p> <p>📄記事</p>	<p>📄一覧</p> <p>東京新聞 12月10日、1月28日、 2月4日</p> <p>毎日新聞 12月11日、18日、25日 1月8日、15日、22日、29日 2月5日、11日</p> <p>日経新聞 1月7日、2月4日</p>
<p><雑誌></p> <p>美術の窓 1月号</p> <p>月刊美術 1月号</p> <p>美じょん新報 255号</p>	<p><会員誌、フリーペーパー等></p>
<p><WEB></p> <p>アートアジェンダ</p> <p>美術展ナビ</p> <p>…展覧会紹介 12月4日／展覧会レポート 12月15日</p> <p>KATYCOM…今見られる全国のおすすめ展覧会 100</p>	<p>artscape</p> <p>インターネットミュージアム</p> <p>Tokyo Art Beat</p> <p>Art Talk</p>
<p><その他></p> <p>練馬区報 12月1日号</p> <p>区公式ツイッター</p> <p>貫井図書館だより 11月号</p> <p>NERICUL 2020 Autumn Vol.19</p> <p>NERICUL 2020 Winter Vol.20</p> <p>ねりまほっとライン (テロップ放送)</p> <p>J:COM つながるNEWS (番組)</p>	

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

1 来館者の安全確保体制

- ① 来館前の検温実施を要請し、来館自粛を求める条件をホームページ等で周知する。
 - ア 37.5℃以上の発熱があった場合
 - イ 咳・咽頭痛などの症状がある場合
- ② 館内滞在時間を1時間から1時間30分程度とすることを依頼する。
- ③ 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒を要請する。
- ④ 上記①～③について館内入口に掲示する。
- ⑤ 貸出物（車いす、ワークショップ時の作業道具等）は消毒を行い貸し出す。
- ⑥ 観覧中に感染が疑われる体調不良者が発生した場合には、あらかじめ準備した他の来館者から隔離できるスペースでの休憩を促し、救急要請する。
- ⑦ 封筒に入れたマスクを用意し、着用していない来館者に受付・監視職員が声かけ、配付する。
- ⑧ ワorkshop時の作業スペースにおけるソーシャルディスタンスを確保する。

2 スタッフの安全確保体制

- ① スタッフは就業前に検温する。
- ② 発熱のあるスタッフは医療機関の受診を促し、診断結果を確認する。

下記の症状に該当する場合は自宅待機とする。

咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻づまり、味覚・嗅覚障害、目の痛みや角膜の充血、頭痛、完成・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐
- ③ 咳エチケット、マスクの着用、手洗い・手指の消毒を徹底する。
- ④ 接客対応には、マスク着用・アクリル板での遮断、フェイスシールドの着用で飛沫感染を防ぐ。
- ⑤ 現金やチケットのやりとりには手袋を着用し、トレーを使用する。

3 館内管理

- ① 館内
 - ア トイレ等の共有部分および不特定多数の人が触れる場所を頻繁に清掃
 - イ 入口等適切な場所に手指消毒液を設置
 - ウ 清掃スタッフのマスク、手袋着用の徹底、清掃後の手洗いの徹底
 - エ トイレに手洗いを促すよう掲示
 - オ ハンドドライヤーの使用中止
 - カ 過密を避けるため、エレベーターの利用は階段昇降が困難な方に限定

② ロビー

- ア 対人距離を確保するため、フロアマーカ―を設置
(チケット購入の列・トイレの列・グッズ購入の列)
- イ ソファは間隔を空けて座るよう座れない場所に表示
テーブル・椅子は間引きして配置

③ 受付カウンター

- ア アクリル板の設置
- イ チケットおよび現金受け渡しに手袋の着用およびトレ―の使用

④ 展示室

- ア 監視員のフェイスシールドおよび手袋の着用
- イ 観覧者の入室時のチケット確認の緩和

⑤ グッズ等販売カウンター

- ア 受付カウンターの過密を防ぐため、休憩コーナーでグッズ等を販売
- イ 販売カウンター等にビニールシートを設置

4 混雑時の入場制限の実施

① 展示室…約 130 人

※ 2 m の対人距離をとれる人数 524 m^2 (展示室全体) $\div 4 \text{ m}^2=131$ 人

② ロビー…約 30 人

5 広報・周知

① ホームページ・館内掲示への記載により来館時の注意事項を周知する。

ア 来館前の検温実施の要請、来館自粛を求める条件の記載

・ 37.5℃以上の発熱があった場合

・ 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻づまり、味覚・嗅覚障害、

目の痛みや角膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、吐き気・嘔吐の症状がある場合

イ 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指消毒の要請の記載

ウ ソーシャルディスタンスの確保徹底の記載

エ 入場制限についての記載

オ 滞在時間の目安を 1 時間～1 時間半とする要請の記載

カ 展示室内での会話を控える要請の記載

キ 作品の前で長時間立ち止まらない要請の記載

② Twitter での案内を行う。

ア 来館時の注意事項

イ 随時の混雑状況

ウ 待ち時間の目安

エ 空いている時間帯、混んでいる時間帯

6 混雑時の対応

- ① ホームページ、**Twitter** で混雑状況を発信する。
- ② 入場制限を行う場合は、未利用のギャラリー等を入場待ちスペースとして使用する。
- ③ 誘導スタッフを配置する。
 - ア 入場者の整理、制限、誘導等について、専門スタッフを配置
 - イ 混雑状況により、必要であれば誘導スタッフを増員